

令和 6 年度

# 学 校 評 価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。評価ⅣはABCDで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅲの基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後の期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅳの基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼 崎 市 立

立 花 中

学 校

# 令和6年度 学校評価

## 【教育の基本方針】(尼崎市教育振興基本計画)

- 1 未来志向の教育
- 2 個の尊厳や人権の尊重
- 3 家庭・地域社会との連携(子どもの視点に立った教育)

[各校の重点取組について]

- |                     |                  |                    |
|---------------------|------------------|--------------------|
| 1. 生徒理解にもとづく生徒指導の充実 | 2. 学力向上の推進       |                    |
| 3. 道徳教育、キャリア教育の推進   | 4. 業務改善・勤務時間の適正化 | 5. 今日的課題に対応する教育の推進 |

### 学校評価の観点

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに、客観的なデータを踏まえた確かな学力の保証及び縦のつながりを重視した校種間の連携に努める (2) 障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ、様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となる特別支援教育の取組を充実させる (3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、健全な心と身体を培い、豊かな人間性の育成を図る (4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る (5) 積極的にICTを活用し、情報活用能力の育成を図る		3	3
取組	成果	課題と改善策	
・あまっ子ステップアップ調査の昨年度の結果に基づき、今年度は「生徒が自ら家庭学習に取り組み、学力向上を図る取組」「ユニバーサルデザインを意識した授業づくりと学級経営」を研究テーマとした。 ・今年度は、国語と理科で校内研究授業を実施した。 ・小中連携では、出前授業を実施し、合同研修の中で、不登校児童・生徒への支援とICTの活用についての各学校の取組について教員間での情報交換を行った。 ・中2対象の生活習慣病予防検診を市の健康支援推進担当と連携して行った。	・研究テーマに基づき、学年ごとの取組であった連絡帳を統一し、記入時間も決めて家庭学習への取組につなげた。ユニバーサルデザインを意識した授業づくりと学級経営については関西国際大学の百田教授を招いての研修を計画したが、百田教授の体調不良のため未実施となった。 ・校内研究授業では、教科の枠を超えた授業力の向上に取り組むことができた。 ・小学校の教員と情報交換を行うことで、9年間を見通した指導を意識して行うことができた。 ・中2対象の尼っこ検診を校内で実施した。32名が受診し生活習慣病を予防するための知識を得ることができた。	・学校評価アンケートの中で、連絡帳の取組の反省点、未実施であった研修を来年度に再度取組む計画を立てる。 ・教育課程の編成上、日常的に小学校との連携は難しいが、無理なくできることから継続的に実施していくことで校長間の共通理解を得ることができた。	
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (2) 道徳性育成の取組を促進し、多様性を受容し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もが安全・安心して過ごすことができる学校の環境づくりに努める (4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成を図る (5) 不登校にならないようにするための学校づくりを進めるとともに、不登校児童生徒の学習環境の確保や家庭への支援に努める		3	3.5
取組	成果	課題と改善策	
・年度当初に生徒理解研修を実施し、特別な支援を要する生徒についての共通認識を図った。 ・生徒向けの人権講演会、性教育講演会を実施することで命の大切さや人権にかかわる生徒の意識の向上を図った。 ・いじめについては年間3回のアンケートを実施することで、早期発見・早期対応ができた。 ・SNSに係るトラブルはここ数年どこの中学校でも多く見られるため、情報モラル研修会を実施し生徒の意識を高めた。 ・不登校児童・生徒の増加もあり、小中合同研修の中で研修するとともに意見交換を行った。	・毎週行う教育相談員会で、特別に支援を要する生徒や不登校生徒の情報交換を行い、学校全体で支援をしていく情報共有が行えた。 ・卒業判定、進級判定にかかる生徒と保護者に対して校長面談を実施し、来年度に向けた話し合いができた。 ・いじめに対するアンケートの実施と、対応については教員の意識が変わってきている。 ・自死や自傷行為に係る検索をして、見守りフィルターに引っかかる生徒についても情報をキャッチしたあとの校内での情報共有および保護者との連携を迅速に行うことができた。	・不登校生徒の割合が多く、今年度は具体的な数値目標も設定したが達成は出来なかったため来年度も継続して取り組む。 ・生徒はいじめは絶対にいけないことの認識はあるが、クラスにそれを許さない雰囲気があるかと問われるとまだまだ意識が低い面が見られた。 ・保護者の中には、いじめについての認識がまだまだ浸透していないところあり指導で困難な場面もあった。 ・SNSのトラブルについては定期的な講演会等を行ってもなかなか0(ゼロ)になることはなく、継続した指導の必要性が感じられた。	

<b>3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</b> (1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 学校と地域との連携・協働を推進し、地域とともにある学校づくりに努める		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
		3	3
取組	成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノー会議デー、定時退勤日を月中行事表や連絡黒板にも明記し教員一人ひとりの意識付けを行った。</li> <li>・業務改善委員会で、今年は夏の研修会において、教員それぞれの勤務実態を明らかにし、業務改善の意識を高めた。</li> <li>・今年度の重点取組の生徒理解にもとづく生徒指導の充実の中で、生徒、保護者、地域の人とていねいに関わること、思いを受け止めるということを中心に学校経営を進めてきた。</li> <li>・学校評議員会、PTA役員会とは、学校行事を見ていただくとともに定期的な会議を通して学校の様子を発信し、意見を求めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内の業務改善と合わせて、記録簿や日々の勤務実態を把握しながら教員には声かけや面談を行いながら対応した。</li> <li>・各教員は生徒、保護者、地域の人とていねいに関わる中で、地域の中の学校であることを意識するようになってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務改善については、それぞれの教員が少しずつは意識しているが、絶対的な業務量が減らないため困難な面はあるが、仕事にメリハリをつけることでリフレッシュを図ることで対応している。今年度行った勤務実態を明らかにする取り組みは来年度も継続したい。</li> <li>・生徒と地域の交流はなかなか十分にはとれていないが、学校と地域の関係団体との情報交換等で学校の様子を発信するとともに、地域の中の学校を意識した取り組みを進めていきたい。</li> <li>・令和7年度からのコミュニティスクールの準備も滞りなく進めていく。</li> </ul>	

<b>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</b> (1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
		3	3
取組	成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生を対象とした自転車安全教室を実施し、全校生徒へは自転車乗車時はヘルメット着用が義務化されたことについて指導した。</li> <li>・1年生ではSNS講演会を実施し、全学年で情報モラルの研修およびスマートフォンの適切な使い方について指導した。</li> <li>・各学期に防災訓練、および防災講話を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校の通学路で道幅が狭く危険なところがあるので路肩のカラー化を依頼し、実現することになった。</li> <li>・部活動での自転車移動も含めて生徒のヘルメット着用が増加している。</li> <li>・SNSの使い方によっては、被害者になることも加害者になることもあり得ることについての理解が進んだ。</li> <li>・避難訓練では、ふざけることなく迅速な行動をとることができていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部で自転車の乗り方について、危険なところがあったり周りに迷惑をかけているところもあるため継続した指導が必要である。</li> <li>・スマートフォン、SNSに関わるトラブルは毎年講演会等を実施してもなくなることはなく、引き続き継続した指導を続ける必要性を感じている。</li> <li>・災害はいつ発生するかわからないため、防災意識を高めるとともに、もしもの場合に生徒が自ら考えて判断し行動する力を養っていく。</li> <li>・保護者へも周知も含めて家庭と連携しながら指導を進めていく必要がある。</li> </ul>	

教育目標		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		3	3.5
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実			
取組	成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒理解にもとづく生徒指導の充実、学力向上の推進、今日的課題に対応する教育の推進を重点目標として、生徒向け研修会、検定チャレンジ、小中連携、職員研修を進めた。</li> <li>昨年度の学校評価アンケートから気になる点を具体化し、数値目標を立てて全教員で共通理解を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員は生徒、保護者とていねいにかかわり、日々の教育活動に熱心に取り組んだ。</li> <li>校内における具体的な学校評価を実施し、現状の把握に努めた。</li> <li>数値目標を立てて取り組んだ改善点について、多少の改善は見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒、保護者、地域から信頼される学校、安心・安全な場所である学校を目指し、今年度の反省も活かし来年度も取り組んでいく。</li> <li>数値目標を立てて取り組んだ改善点について、多少の改善は見られたが、目標数値は達成していないため来年度も継続して取り組んでいく。</li> </ul>	

研究テーマ		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		3	3
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実			
取組	成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>「生徒が自ら家庭学習に取り組み、学力向上を図る取組」、「ユニバーサルデザインを意識した授業づくりと学級経営」を研究テーマとし、教科と道徳の校内研究授業を実施した。</li> <li>小学校への出前授業を実施し、小学校教員との交流を図るとともに、合同研修の中で、学習指導、生徒指導、特別活動等の各学校の取り組みについて教員間での情報交換を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究テーマに基づき、学年ごとの取組であった連絡帳を統一し、記入時間も決めて家庭学習への取組につなげた。</li> <li>校内研究授業では、教科の枠を超えた授業力の向上に取り組むことができた。</li> <li>小学校の教員と情報交換を行うことで、9年間を見通した指導を意識して行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価アンケートの中で、連絡帳の取組の反省点、未実施であった研修を来年度に再度取組む計画を立てる。</li> <li>教育課程の編成上、日常的に小学校との連携は難しいが、無理なくできることから継続的に実施していくことで校長間の共通理解を得ることができた。</li> </ul>	

## 学校関係者評価

※ 評価Ⅲの基準

4:よく取り組んでおり、成果が大きい  
2:取り組んでいるが成果が十分でない

3:熱心に取り組んでおり、今後の期待できる  
1:取組が不十分である

学校関係者意見等		評価Ⅲ
<p><b>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む</b></p> <p>・教員の取組が理解できている生徒、また生徒の勢いも目に見えて素晴らしい。 ・生徒並びに教職員へのアンケート結果について、認識に差異がある場合に、生徒の集計結果を教員へ提示の上、今後の授業展開に活かすよう促すという対策を引き続き取られるということ で、大変有効であると考えます。 ・学校だよりについて、校長先生のコメントは興味ある内容になっていると感じました。 ・保護者としても学校に行くことがありますが、しっかりと挨拶される点はとても良いと感じましたし、生徒だけでなく、教職員の方々の対応も好感が持てる対応だと実感しております。 ・学校内の課題等に、しっかりと対応されていることが保護者へのアンケート結果並びに実感として伺えました。 ・自律的学習者育成の工夫である「連絡帳」の活用が進められ、数値に表れると思う。健やかな体づくりに向けて、講演会開催等によく取り組んでいるが、生徒の実態は懸念される。</p>	3.5	
<p><b>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</b></p> <p>・理屈もわかり、「意識」も持ち、前に向かって進んでいる。 ・1年生を対象に「情報モラル講演会」や「SNS講演会」、1、3年生を対象に「性教育講演会」、2年生を対象に「キャリア教育講演会」「薬物乱用講演会」の開催をはじめ、人権講演会等、生徒はもちろんのこと、教職員に対してもしっかりと実行されていることは、大変有効であると感じました。 ・不登校児童・生徒の対応に関する研修を実施される等、不登校生徒への対応について、新型コロナウイルスによる自宅待機等の影響がある中、しっかりと分析をされ、対応策を練られていると感じました。 ・進路相談やいじめ対応等一人ひとりに寄り添う取組の効果が不登校出現率減少等に表れている。 ・学校行事では、教員の熱意や個性が反映され、学級・学年経営の成果が表れているとみられる。</p>	4	
<p><b>3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</b></p> <p>・基本がわかっていて、実行に対し少し足りない部分もあるが、あとは倫理観である。 ・昨年度要望として挙げました体育大会の土曜日開催について、今年度実現いただけたことに、保護者としても感謝しております。保護者アンケートにもありましたが、種目のバリエーションについて、時間的な制約もあり、なかなか難しい背景もあるとは存じますが、増やすことができると、子供たちの活躍の場も増えるのではと思います。 ・小中連携で出前授業を実施されていることも、大変有効であると感じました。 ・三者の中心となるPTAの活動に対し、校長を筆頭に教職員が協力し、連携を深めているとみられる。 ・PTAは先進的かつ円滑に動いているとみられるが、地域移行後の部活動の将来性が不透明である。</p>	3.5	
<p><b>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</b></p> <p>・知識、意識をしっかり持っているので実行は速くない。 ・学校だより令和6年度1月号を拝見しまして、阪神・淡路大震災から今年で30年をむかえるにあたり、大震災から学ぶ3つの教訓(情報取得後の避難対応、情報入手手段を複数持つこと、耐震化等の個人インフラの整備)が校長先生より示されており、とても素晴らしいと思いました。南海トラフ地震の発生確率が上がる中、このような生徒並びに教職員への意識啓発を引き続きお願いしたいです。 ・同じ学校だより令和6年9月号では、9月1日の防災の日にも触れていただく等、災害医療に携わる立場としても、大変ありがたいと思います。 ・通学経路の安全性や避難方法を保護者に問うなど、情報共有や安全意識の高揚を図っている。 ・通信端末の所有と利用に対する管理・指導が生徒の安全に深く関わることを保護者に啓発されたい。</p>	3.5	
<p><b>■教育目標</b></p> <p>・目標達成に学校、生徒が一体となっている。もう少し厚みがあると最高か。 ・教員のアンケート結果から、目標に向けての教育活動の展開について等、昨年度同様しっかりと意識されて授業を担当されていると実感しました。生徒へのアンケートで、学校に行くのが楽しいという項目について、目標までもう少しということで、達成に向けて頑張ってください。 ・学校教育目標やめざす生徒像等の設定は適切であり、実現するための方策も概ね妥当である。</p>	3.5	
<p><b>■研究テーマ</b></p> <p>・やるべきことはわかっているが、少し取組の甘さが見受けられるが、頑張りは目に見えている。 ・校内研究授業を今年度も引き続き実施されている等、お聞きしまして、より良い授業を目指していることが伺えました。 ・学校評価や学力調査結果を踏まえた取組の柱となる「主題」の学校要覧等での明示が望まれる。</p>	3.5	
■		
■		
<p>評価項目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)</p>	評価Ⅳ	
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	B	
自己評価の結果の内容は適切か	B	
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B	